

## 第2回 蕨市将来ビジョン審議会 会議概要

■日 時 令和5年5月19日（金） 午前10時00分～12時00分

■場 所 中央公民館1階・集会室

■出席者 （敬称略）

委 員：林大樹（会長）、坪井真（副会長）、武下涼、宮下奈美、古川歩、本田てい子、前川やすえ、植田富美子、平田毅、佐藤政美、上野寿一、智内兄助、長谷川浩司、岡本和子、山之内正、木田麗花、笹渕敏子、島村幸子

事務局：阿部泰洋（総務部長）、佐藤則之（総務部政策企画室長）、島田雅也（総務部政策企画室主幹）、市川翔太（総務部政策企画室主査）、藤田睦子（総務部政策企画室主事補）、横山徹（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング）

### ■次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 前回の会議概要について（確認）
4. 議題
  - （1）将来構想について
    - ・将来構想のイメージ、将来構想検討の要素について
  - （2）その他
5. 閉会

### ■内 容

#### 【前回の会議概要について（確認）】

事務局から前回の会議概要について確認を行い、了承された。

#### 【議題】

##### （1）将来構想について

事務局から、将来構想について、構成イメージや新たな将来構想の記載に当たっての要素などを説明した。（資料1・2参照）

委 員： 会議の進め方についてだが、分野別の議論は、木で例えると枝の部分ではないか。枝の部分よりも幹の部分、分野設定がこれでよいかなど、先に議論すべきではないか。

- 事務局： 資料で示した分野分けは例としてあげたものである。これに縛られず、忌憚のないご意見を伺いたい。もっとも、例とは申し上げたが、キーパーソンヒアリングの結果等を踏まえ、今後の方向性として置いたものであることはご理解いただきたい。
- 委員： 10年前に策定した計画において実現できたものと、10年後に期待されるものを見て、これから何が必要かを議論すればよいと思うがいかがか。
- 会長： 事務局から説明があったとおり、資料に示した分野設定はあくまで暫定である。議論をしていくうちに、派生して分野が増えてもよいと思う。委員のご発言を踏まえて、他に必要な分野があるかも含めて皆さんからご意見を伺いたい。
- 委員： 消費者被害について、特に高齢者と子どもを狙った被害が増えているので、危機感の共有ができればと思う。市が被害の詳細情報を発信していることはとてもよいと思う。ひと月の被害件数などといった数の情報があると、より注意喚起の面で有効かと思う。
- 委員： まず防災に関して、外国人住民の避難など、町会の人々が災害時にどう対応すべきか、マニュアルが必要ではないか。もう一つ、高齢者クラブの活動が不活発になっているように感じるが、高齢者の居場所でもあるし、運営の担い手が必要だと思う。
- 委員： 公園のベンチに仕切り板が設置されているが、人を排除しているような印象を受ける。今後は、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」などの観点も踏まえることが大切ではないか。
- 委員： 安全安心の分野に関して、新型コロナウイルス感染症の蔓延といった想定外のことを経験した。今後は企業活動を停滞させないためにも、感染症も踏まえた企業のBCP（事業継続計画）策定に向けた働きかけなども重要ではないか。
- 委員： 特に商店街の衰退が気がかりだ。蕨の商店街の場合は商業者と土地所有者が異なることが多く、商店が住宅に変わる要因にもなっているのではないか。私も長年蕨市に住んでいるが、住みやすいまちなので、皆さんにもずっと住み続けてほしい。
- 委員： 児童館などが数多くあって、子育てしやすいまちだと思う。しかし、児童館は18歳まで使える施設であるが、閉館時間が17時までとなっており、中・高生は利用しにくいように感じる。また、現在は月曜日が休館日として固定されているが、輪番制で開館するなど、子どもたちの居場所となるよう柔軟な運用も必要ではないだろうか。
- 委員： ごみの問題について、今後幅広い視点で話し合いたい。ごみは環境をはじめ文化などさまざまな分野との関連があり、また、私たち人間の終末期に至るまで密接なテーマであると捉えている。
- 委員： ボール遊びが禁止されている公園が多いので、ボールが使える公園を増やし

てほしい。それから、駅前再開発で駅周辺が賑わうだけでなく、商店街にも人の流れができるようにするとよいと思う。10年後を考えて、次世代の若者が増えていくようなまちづくりを望みたい。

委員： 今後10年で、どのようなまちを目指すかが重要であると思う。商店街は以前より廃れてしまって、住宅が増えた。公園については、錦町土地区画整理事業に伴う公園整備の中で、役割を分けながらボール遊びできる公園もつくっているが、今後、他の地区で簡単に進められるわけでもない。今後まちをどのようにしていくか、考える必要があると思う。

委員： 外国人が多いので多様性に配慮したまちをつくるべきだと思う。また、子育て支援や医療の充実、商店街の活性化などに力を入れるとともに、高齢者が生きがいの持てる暮らしのために、文化豊かなまちにしてほしい。

委員： DXは新たな項目として加えてはいかがだろうか。新型コロナウイルス感染症の蔓延で私たちの生活は激変した。教育、防犯、医療、市役所等の窓口において、デジタルは欠かせないものである。

委員： 防災力を向上させるため、各地域で防災対策に力を入れていくべきだ。また、外国人との共生について、文化や考え方の違いで悩んでいる市民が多いように思う。今は人口の1割だが、今後2割になることも考えられる。まちづくりを話し合うこのような場に、外国人の方に参加してもらうのもよいのではないか。

委員： みんなで育てるまちづくり、がよいと思う。蕨市は生産年齢人口が多いと言われているが、単身者が非常に多く、帰って寝るだけの方も多いのではないだろうか。みんなで育てるまちづくりを進めるためには、団塊の世代と若者世代の交流の場が必要だと思う。今後10年は、個を大切にするとともに、世代間のつながりが非常に大事になると思う。

委員： 新型コロナウイルス感染症の蔓延で、高齢者の心と身体が急に弱まった気がする。高齢者が外出しやすいまちになるよう、施設の段差をなくすことや、バスの利便性等を充実させることに力を入れてほしい。また、転入促進については、若い世代をどのように呼び込むか、今後の大きな課題だと思う。

委員： まちづくりでいつの時代も求められていることは、安全安心である。私は北町で防犯パトロールに携わっているが、消火器を設置・管理している町会もあり、町会活動が大きく影響していると感じている。また、蕨市の飲食店は横のつながりが強いとも感じており、このような横のつながりを強めることが、にぎわいや活力につながるように思う。

副会長： キーワードは、若い人たちとの世代間交流かと思う。もう一つ、情報共有の仕組みづくりが大切で、これからは世代間交流や情報共有の仕組みづくりが必要だと思う。

委員： 基礎調査報告書の50ページあたり（市民意識調査結果の概要）を見ると、上位にきている医療や福祉、10年前は下位だったが順位が上がってきたデジ

タルは、大きなポイントかと思う。それから、分野設定の例に関して意見を述べると、環境とまちのにぎわいは分けてもよいと思う。もう一つ、全体的な蕨の方向性に関しては、住みやすさと働きやすさの両方をPRしていくとよいと思う。更に加えると、特産物、ふるさと納税の活用にも力を入れてほしいし、ダイバーシティ、多様性についても10年前よりもよりフォーカスした計画づくりがされるとよいと思う。

委員： 少子高齢化社会の中、弱者に優しいまちになってほしい。外国人住民に関しては、数が増えていく中で、町会へ加入してもらおうなど、蕨市の力になってもらえるような関わり合い方をしていくべきだと思う。それから、災害時に有効活用していくため、避難行動要支援者名簿については、定期的な更新や一層の周知が必要と考える。また、まちづくりに元気な高齢者の力を活用していくため、世代間交流に結び付けて高齢者の活躍の場を増やしてみたいかだろうか。

委員： 文化については、日頃から市民が文化のボトムアップを目指していけばよいと思う。具体的には、近所に花を植える、家の周りや周辺地域の掃除をするなど、身近なことから取り組んでいくのが大切である。

委員： 蕨市の産業振興の方向性を打ち出す必要がある。令和3年経済センサス活動調査の結果がまもなく公表されるが、県南地域は企業数が減っていると思われる。企業数を確保していくため、後継者の確保や起業者の育成に力を入れてほしい。総合的な都市の力では、さいたま市や川口市に敵わないため、蕨ならではの優位性の構築を図るべきだと思う。また、これからはSDGsやDX、脱炭素など時流を捉えた企業経営の手法を取り入れることも重要である。

会長： 企業数の減は、働きやすさと関係があるのだろうか。それとも、大規模化が進んでいるからなのか。

委員： 県南地域には、零細企業で家族経営のところと比較的多く、多くの従業員を雇い入れる事業所は少ない印象だ。また、昨今、外国人就労者が増加している一方、経営者からは、文化の違いなどから継続雇用がしにくいという相談も寄せられている。

委員： 若い世代の参画を得ながら活発に活動している団体もあり、若い方への積極的な呼びかけ努力が必要だと思う。それから、蕨市立病院を盛り立ててほしいと思う。よい先生もいるし、何より公立の病院がない自治体もあるなかで、蕨市に市立病院があることは強みでもある。今後の建替えに際しては、診療時間の拡充など利便性の向上にも努めてほしい。

委員： 外国人住民が増えている。小学校のクラスの中で、子どもたちが言葉の壁を感じていると聞いた。地域で阻害されることなく、気持ちよく生活できるよう、日本人も外国人もお互いが外国語を学べる機会があればよいと思う。

委員： 情報共有・発信や世代間交流が重要との意見があったが、発信したとしても共有してほしい相手に届くだろうか。市民の関心を呼ぶような取組や若者が参

加しやすい市の活動の充実、その伝え方にも工夫が必要だと思う。

委員： 防災の面においても、コミュニティの構築が非常に大事だと思う。実際は、地域のコミュニティは希薄になっている。どこに誰が住んでいて、どのような支援を必要としているかも分からない。個人情報保護の観点では重要であるが、活動上の制約になっていると感じる。

委員： 地域の団体について、元気に活動しているところがあるのは承知しているが、そうではない地域が多いと認識している。実際、私のところは、住んでいる地域の子ども会がなくなった。極端に言うと、若い世代はコミュニティを求めているのではないかとさえ思う。また、今は情報交換をすべてスマホで済ませられる時代になった。若い人に、これまで通りのやり方で、コミュニティが大切とアプローチしたところで、響かないのではないかと。市はどのように若い世代にアプローチして、コミュニティに参加してもらえるか、考える必要があると思う。デジタル世代とアナログ世代を分けて対応する、という手法も、実は有効なように思う。

委員： 保育の質を上げることが大事だと思う。他市では、保育の量ではなく質の確保が課題になっていると聞く。文化、教育も大切である。教育に関連しては、学校のハード面での老朽化対策が今後の課題になると思う。

委員： 若者に対してのメッセージの発信、伝え方を、市は工夫する必要があると思う。子育て・介護は全ての世代に関連するものであり、若い方にも関係があるということをおいかに伝えていくかが重要だと考える。

## (2) その他

事務局から、第3回以降の審議会の開催日程を報告した。

会長： 全体を通じて他にご意見はあるか。

委員： 事務局をお願いしたいが、10年前に策定した計画について、10年間で取り組んできたこと、進めてきたことなどを資料として示していただきたい。例えば、上下水道の整備をしたとあるが、具体的に何をしたのかなど、簡潔に箇条書きでお示しいただければよい。

委員： 資料にコロナ患者数や詐欺被害件数など、具体的な数字を示してほしい。その方が、議論がしやすくなると思う。膨大な資料とする必要はない。

事務局： どの程度の資料をお示しできるかも含めて検討し、対応していきたい。

【閉会】

以上